

G3 のツイッター その12

烈剛河内 竹井 保満

今、流行のコロナウィルス COVID-19 が猛威をふるっており、これが医療設備や衛生観念の乏しい後進国に広がって行くと大変な事に成ると考えるとおどろおどろしく成ります。日本でも各種の集まりや競技会が中止に追い込まれいますが、ベンチやパワーのアジアや世界大会が中止や、入国拒否になれば毎日精進してきた友人たちの努力が無にならないか心配しています。

コロナウィルスは COVID-19 を含めて四種類あるそうですが、3～4歳までに知らない内に罹患して、知らないうちに治っているものもあるようです。今、流行のコロナウィルスについて日本政府は人間だけのことを考えて対処しているように見えますが、宿主はキクガシラ蝙蝠・ひとこぶらくだ・ハクビシン等です。保菌者や感染者は、我々の身近にいる動物たちにも居ます。鴨や水鳥・鶏・雀や鳩などの鳥類・牛や馬・豚や犬猫などで、私の考えでは犬猫とのキスや馬刺し等の殺菌されていないものは口にしないことが大切だと思います。特に豚は鳥類のウィルスと哺乳動物のウィルスを合わせ持っていて新しいウィルスを作り出すからです。素晴らしい抗ウィルス薬を作っても直ぐに効かなくなってきています。

次はウィルスよりちょっと大きな細菌の話です。このマイクロバイームは、コンクリートの中に混ぜておけばコンクリートが劣化してひび割れができて酸素と水が入ってくると目覚めて炭酸カルシウムを作りコンクリートを再生します。菌は200年も生き続けるので土木界の革命に成ります。また年間1200万トンも作るプラスチックごみを食べる細菌を京都工芸繊維大の小田教授や、奈良先端科学大学院の吉田教授らによって発見、実用化に向けて頑張っておられます。海外でのもう少し大きな話、ハチノツツリガの幼虫でプラスチックの袋を食い破って外に出たのを発見しプラスチックを食べる虫として特許を取ったそうです。暗い話ばかりでは無いようです。

私がお世話になっているジムも肺炎の流行を防ぐために休止になってしまいました。2週間になるかそれ以上になるか不明です。狭い部屋でダンベルを振り回すか、まだまだ、寒いですが、砲丸投げや、やり投げを草原を探して練習しようと思っています。